

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム ハートの家(1)	評価実施年月日	平成21年10月19日～平成21年10月31日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月4日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>毎日の生活の中で散歩・買い物・夏祭り等の行事を通して地域との関わりを持ちながら理念に基づいた地域参加できるよう心掛けている。</p>	○	地域の行事や自治会、老人クラブ等に積極的に参加させていただき、共に喜び合える事を理念として取り組んでいきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>ホーム内の要所に、運営理念を掲げ、管理者と職員はミーティング時に話し合い、確認しながら実践に向けて取り組んでいる。</p>	○	ミーティングなどを活かし、話し合いながら理解を深めていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入居者様やご家族様とコミュニケーションをとり、日常生活の中やハート便等で伝えるよう努めている。地域に対しては行事に参加させていただいたり、参加していただき理解してもらえるよう努めていく。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>ホームで行った消防訓練に参加して頂いたり、行事に参加して頂き、日常的にも気軽に立ち寄っていただける様努めています。</p>	○	今後も積極的に声をかけさせて頂き、地域密着のサービスが出来るよう努めていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域のお祭りへの参加、子ども神輿等にも来て頂き、地元の方々と交流を深めている。</p>	○	今後も積極的に参加させていただき、地域と密着したサービスが出来るよう努めていく。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>近隣の高齢者に声をかけ、敬老会等に参加していただいています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>定期的ミーティングの場で検討し、改善に活かしている。</p>	○	今後も更なるサービス向上・改善に取り組んでいく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>定期的ミーティングの場で検討し、改善に活かしている。</p>	○	今後も更なるサービス向上・改善に取り組んでいく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市社協に高齢者疑似体験セットの申し込みについて連絡をさせていただいて頂き、職員のサービスの質向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修会参加などによる成年後見制度や権利擁護事業について学ぶ機会を設けている。</p>	○	今後も職員全員が制度の内容や何故必要なかを理解できるよう研修会参加を呼びかけていく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修会やシンポジウムに参加し、職員が高齢者虐待防止関連法についてより深く学ぶ機会をもうけ防止に努めている。また法人内にも身体拘束・抑制廃止・虐待防止推進委員会を設置し、理解を深めている。</p>	○	高齢者虐待防止法に関する資料を配布し、ミーティングをおこない、職員がその内容について理解を深め、防止に努めている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>パンフレットやしおり等を用い、十分に説明を行っている。遠方にて来られないご家族様に対しても電話連絡と手紙のやり取りで理解を頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から入居者様やご家族様が意見の言いやすいようこちらからお声を掛けさせて頂いたり、意見箱を設置したり、苦情申し立ての公共連絡先を掲示している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態は体調変化時にはご家族様に連絡をしている。ご家族様来訪時には必ず体調面も踏まえた報告もおこなっている。金銭管理については毎月末に利用明細の添付された請求書を送付させていただいている。職員の異動については月1回発行しているハート便りの他、異動の挨拶として葉書にて報告させて頂いている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や不満、苦情に関する事については契約時に説明してる。また、掲示にてどのように報告するのか、また外部への申し立て連絡先を明確にしております。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に2度の全体ミーティングの他に適宜スタッフとの話し合いの場を設けている。意見などについては管理者会議にあげ、業務改善に繋げている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて対応できるような勤務の調整や入居者様、ご家族様の状況に合わせた対応を出来るようしている。	○	状況に合わせて、入居者様や職員の負担のならない範囲でシフトを変更している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職の際には、早急に人員を補充し、引き継ぎ期間も設け、入居者様へのダメージを防ぐ配慮を行っている。また、日頃から離職率を抑えるためにもスタッフとのコミュニケーションや話し合いの場、学べる機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部からの研修案内には必要に応じて参加し、内容に応じて全員が均等に参加できるようにしている。また、法人内での研修会を年に4回程度行っており、内容も今何を学びたいか職員の意見を基に決めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同区内にあるグループホームの集まりを通してお互いに情報や意見交換を行い、サービスの質の向上を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>法人全体で、年に一度忘年会を開催している。その他部署ごとに休憩場所を設置している。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各種試験にむけた休暇をとるよう奨励したり、介護支援専門員の更新研修の際には必要経費を法人負担としている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談から契約に至るまで、来所して頂くことはもちろん必要に応じてホームから本人またはご家族様宅に向う。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>認知症の親を抱えているご家族様の気持ちに沿い、不安な気持ちを受け止め和らげるための努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人内に居宅介護支援事業所があるので必要と感じた際は、介護支援専門員と連携をとっている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には必ずご本人様に見学していただきホームの雰囲気を感じていただくよう努めている。家族様からも十分な生活歴やご性格を伺い環境整備に勤めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の出来ることを通じて教えてもらいながら一緒に行う場を作り関係作りに努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホームの行事の際には必ず声を掛けており、日程も参加しやすい調整している。また、月に1回個別の新聞にて入居者様の様子を写真つきでお知らせしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居の際はお互いにどのように関わりあって生活してきたのかをしっかりと把握しフォローに努めている。ご家族様にも定期的な行事に参加していただき、来れない場合には手紙や電話を通して行っている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人が来訪されたり電話が掛かってきた際のフォローやご家族様や本人様から馴染みの場所を教えてくださいに行けるようスケジュールを組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	買い物やイベントを計画実践し、皆が自然と触れ合える場を作ったり掃除や洗濯等日常の中で協力しながら生活し合えるように声掛け見守りを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院のため退去された方に対しても、荷物の預りや今後の相談も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必要な物したい事の訴えがあった際はすぐ実践できるようにスケジュールを組み、困難な場合は本人、ご家族様と相談の上意向に近いものを提供させて頂いている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴、背景、大事な経験等をご本人やご家族様から伺いながらセンター方式等を利用し経過などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様個人のペースに合わせた過ごし方の中で、心身状態の見極め、変化等を見逃さないよう日誌に記録しながら気付いた点はスタッフ同士で話し合い、決定した事は周知されるよう申し送りノートを活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族様からの希望、本人の求めているものを取り入れそれを元に計画作成担当者を中心にアセスメント課題分析を行いケアプラン作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎日、介護計画に沿ってのチェックを実施し、検討会議で話し合い、利用者や家族、医師との話し合いを基に入居者様の状況に応じその都度見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個人記録に記入している。個人記録にはサービス内容の記載欄もあり介護計画が成されているかのチェックにもなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	小規模の特性を活かし、外出の付き添い等、その時々で柔軟な支援を行っている。また、地域の方々から介護相談も受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアに来て頂き、ダンスレクを行ったり、救急救命講習などで消防等とかかわりをもっている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	通院先のソーシャルワーカー等と話し合いより良いサービス提供に努めている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じて交流を深めている。入居に際しての留意点など助言を頂いている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	複数の医療域間との連携が出来ており24時間対応の他2週に一度の往診や本人、ご家族様の要望があれば歯科医師の口腔ケアを行うなど利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医と定期受診で関係を築いている。また、ホームでの生活を職員が報告したり、相談させて頂く等適宜アドバイス頂いている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期往診していただいている病院の看護師とお薬や入居者様の状態変化について連携をとっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の場合、医療機関、その相談員と情報交換を行い、ご家族様とも連携をとりながら早期の退院ができるよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期については、法人でマニュアルを作成しており、ご家族様にたいして説明させていただいている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居者様の状況によりご家族様、ご本人の思いを大切に、掛かりつけ医、ご家族様と常に話し合い、ホームで出来る事を確認させていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>移り先の病院や居宅にはフェイスシート、お薬状況をお渡ししている。家族やご本人の状況に合わせ日程やその他詳細について検討している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員は利用者への言葉掛けには、十分な注意を払いながらプライバシー保護を念頭に入れている。個人情報の取扱いについても同意書が交わされており管理の徹底に努めている。プライバシー保護のマニュアルも作成されており、定期的なミーティングを行っている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々に合わせた声掛けを行っている。意思表示の難しい方は表情を読み取るなど出来るだけ本人の意志を大事に支援をしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりの声に耳を傾け、外出や買い物等希望に沿った支援を行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>基本的に自分の気に入った洋服を着ていただくようにしている。地域にある馴染みの美容室を利用したり、訪問で来て頂き、本人の好みに合わせてカットやパーマをかけている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員も利用者と一緒に食事をし、見守りの中ゆっくりと食事の時間を楽しんでいる。食事の準備や後片付けは出来る範囲でお手伝いをさせていただいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	出来るだけ入居者様の希望に沿って行っております。疾病などにより制限がある方に対してはご家族様も交え検討させて頂いている。	○	疾病等の問題の無い方は居室で食べられるよう好きな物を買ってきている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者様の排泄パターンを把握した上で、一人ひとり一定の間隔で声掛けにてトイレに行って頂き、気持ちよく排泄できるよう支援している。	○	個々の排泄パターンにあわせ、声掛けや誘導を必要に応じて行い、出来る限りオムツ等の使用を少なくしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望や体調に合わせて入浴支援を行っている。	○	夜間浴の希望は現在無い為、希望があれば対応して行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者様には一日の生活リズム作りを通した安眠策をとらせて頂き、日中体調の優れない方には居室での休息をとって頂くよう心掛けています。	○	入居者様一人ひとりの希望や体調に合わせ、居室での休息をとって頂いている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家庭菜園や編み物、食器拭きやお膳の片付け、料理の下ごしらえ、水遣り、社交ダンス等、役割や楽しみごとは利用者さまの得意分野を活かしながら、場面作りを行っている。何がその人の喜びや生甲斐につながるかを把握し、自然な形で生活の中に取り入れ支援している。	○	今以上に入居者様の今出来ることを見出し、毎日の生活の中で生甲斐を持っていただけるよう支援して行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人が管理できる範囲で持って頂いており、利用の際はスタッフが見守りさせて頂いている。	○	ご家族様と事前に相談の上、気軽に買い物等に使用できるよう支援させて頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の天候により、体調や希望に沿い、散歩、ご自分の買い物、またホームの買い物等にお誘いしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	地域のイベントや行事、毎年恒例の温泉一泊旅行やお花見など、ご家族様の参加も年々増えてきている。	○	天気の良い日はいつもより少し遠くの場所や綺麗な花が咲いている公園などへドライブに行き、普段と違った所での外食にと、外出の支援を行っている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様は自由に電話をかけております。手紙などの代筆や電話を掛けるなどの支援を行い、遠くのお子様やお孫様達とも関わりを持って頂いている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気兼ね無くご家族様や友人と居室で過ごせるよう心掛けている。	○	地域の方(隣のお宅の奥様など)に気兼ねなく訪問していただくこともあるが、より多くの方にも馴染みを持ち来訪していただけるよう心掛けたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所で委員会を開いており、担当スタッフにより勉強会などでスタッフ全員に伝えている。また、ミーティング等でも話し合いを行っている。	○	書面などによってもスタッフ全員が正しく理解できるよう配布されている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の鍵は防犯の為夜間(21時～翌6時まで)施錠している。居室などは施錠していない。鍵をかけないケアを実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員全員が常に意識し、入居者様の居場所の確認をプライバシーに配慮しながら努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々にあわせ、保管や管理するものをわけている。	○	針、はさみ、爪切りなどの使用時は必ず職員見守りのもと行っている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々の様子、その日の体調を記録(日誌など)している。薬のチェック表を使用し、職員全員が理解し事故防止に努めている。	○	誤薬、飲み忘れ、誤飲を防ぐ為、ひとりではなく二人以上で確認し、職員手渡しし、見守りにて飲んでいただいている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	外部研修や普通救急救命講習、他の施設との合同研修に参加している。緊急時マニュアルもあり、職員は熟知するよう心掛けている。	○	職員が緊急時にも落ち着いて行動できるよう訓練・研修を定期的に行っている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を受け、避難訓練を行っている。火災報知器、災害ホットラインの設置、避難訓練には地域住民にも参加していただいている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族様にはリスクマネジメントとして、ケアプランの説明時にお話しさせていただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフ間の連携を徹底し、必要時には24時間シート等を活用。変化の発見に努めている。特変時は管理者への報告、かかりつけ医への連絡を徹底している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋のコピーを個人ファイル。投薬ファイルに入れ、いつでも職員が内容を確認・把握出来る様にしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食材の工夫、十分な水分摂取、適度な運動などで自然な排便が出来るよう取り組んでいる。また、個々の排泄票を使用し、排便の確認をしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に個々の能力に応じた口腔ケアを行っている。定期的に歯科の検診を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事量、水分量等のチェックと記録を行い、定期受診の際に担当医師に報告している。医師から血液検査等を踏まえ適切な塩分量や食事量等助言を頂いている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてマニュアルを作成し、ホーム内の消毒や手洗い等を徹底し予防対策に努めている。感染症予防の勉強会も適宜行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	常にチェック表に基づき調理職員の手洗、調理器具の漂白等を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気作りを心掛けている。(玄関に花を活け、季節に合った装飾をしている)。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節行事の写真を飾るスペースを設けている。テーブルには季節に合った花を飾り季節感を感じられるよう心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂横に応接セットを置き、少人数でゆっくりと過ごせる空間作りをおこなっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は使い慣れた家具や昔の写真、お気に入りの物を持ち込み快適に過ごせるように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	共有スペース、個室には温湿度計を設置し適切な温度や湿度の調節を行っている。入居者様の過ごしやすい温度にも気を配り窓を開けるなどで温度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	入居者の身体機能に合わせて要所への手摺りの設置、車椅子対応のトイレ等工夫を行っている。また、食堂椅子等も必要に応じてその人にあったものに変えている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ等の表示、居室ドアの表札等の工夫で分かりやすく混乱が生じないようにしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りには花壇があり、花を植えたり野菜を育て収穫したりし、成長を楽しんでいる。		



V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>	職員は日々のコミュニケーションやアセスメントの中から入居者様の思いや願い意向を見つけ出しサービスに結び付けている。意思疎通の困難な方は実際には分からない事もありますが色々工夫し見つけ出す努力をしている。また検討会議やミーティング等が定期的であり、常に話し合われている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>	その日の予定によって時間帯は一定ではないが必ず皆でくつろげる時間を設けるよう常に意識し、毎日行っている。コーヒータイムやおやつタイムは必ず行われ、くつろげる場面となっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>	職員は一人ひとりの生活ペースを把握しており、それを保てるよう見守り支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>	職員は一人ひとりのADLやライフヒストリーを基に個々に応じたその人らしく生きる姿を発揮出来る場面を考え支援している。日々生き生きした姿が見られ、新たな発見につながる事も多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>	要望に応じて、買い物やご家族様との外出(外泊)、お見舞い等を行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>	入居者様一人ひとりの担当医と連携し、その指示による健康管理・安全な生活を維持している。また、現在内科は殆どの入居者様が定期的な往診を受けている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>	病気や怪我・買い物や外出等様々な状況に対しその都度可能な支援、対応を実施し、安全な暮らしへと結び付けている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>	ご家族様の来訪時に要望や意見などに耳を傾けるようにしており、不安心の解消などの支援も念頭に置き信頼関係作りにも努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>	行事やレクの際、地域住民の方が参加される。退職したスタッフや入居者様の古くからのご友人も時々いらっしゃる。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている            ②少しずつ増えている            ③あまり増えていない            ④全くいない</p> <p>様々なイベント(夏祭り、敬老会等)や非難訓練を地域住民を交えて行っている。参加して頂ける地域の方々が増えてきている。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が            ②職員の2/3くらいが            ③職員の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p> <p>以前より懇親会など仕事外のコミュニケーションが増えている。またイベントなども職員の意見により構成され職員も楽しめるものが多い。また、職員同士感じたことを発言できやりたい事を発案できる環境にある。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が            ②利用者の2/3くらいが            ③利用者の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p> <p>食事、入浴等日常生活、介護計画における個別ケア、また行事イベントなど楽しみにおける個別ケアサービスに対して入居者様のニーズを掴みつつ対応しており概ね満足されていると思われる。特に外出(外食・ドライブ等)や日光浴が格段に増え、皆楽しまれている。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が            ②家族等の2/3くらいが            ③家族等の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p> <p>ご家族様がいらっしゃると居室から笑い声が聞こえ、帰りも笑顔である事、語やお俗様の希望に出来るだけ沿ったサービスを職員は心掛けている事、等概ね満足されていると思われる。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

入居者様の意思を大切に、生きる意欲を持って生活出来るよう、最後まで自分の足で歩き、自分の口から食事を摂取でき、綺麗・美味しい・楽しいなどの感情を大切にしていこうと頑張っています。それぞれが好きなように自己主張が出来るホームでありたいと思います。